

古刻新韻

輯本
五日

茶式湖月抄
上

〔目〕湖月老隱

浙江人民美術出版社

古刻新韻

輯本
五日本

浙江人民美術出版社

茶式湖月抄 上

〔目〕 湖月老隱 著

明治十六年十月補彫

湖月老隱著

茶式湖月抄

京都

細川開益堂藏

出版說明

「古刻新韻」叢書輯錄歷代版畫精品，以小精裝、珍賞版的形式展現版畫之美。版畫是中國傳統藝術的重要品種，反映中國歷代禮制、名物、科技、文學、藝術等，是「美麗中國」圖像庫建設的重要內容。中國的雕版印刷術很早就傳到了日本並產生了深遠的影響，而明代大量書籍繪本畫譜流入日本，更是極大刺激了日本本土版畫的發展。將日本版畫納入「古刻新韻」，一方面便于讀者欣賞日本版畫藝術之美，另一方面無疑能夠為讀者瞭解日本提供更多的原始信息，畢竟版畫包羅萬象，舉凡生活、藝術、文學、名物等無不有所表現。「古刻新韻」五輯精選日本古代內容經典、版本精良、畫面美觀的版畫呈獻給讀者，在數字讀圖背景下使讀者感受圖像的神韻與魅力。

「古刻新韻」五輯收入木村孔陽等《賣茶翁茶器圖（外三種）》、《含》、《製茶之圖》、《煎茶圖式》、《茶瓶四十三品》、湖月老隱《茶式湖月抄》、和泉屋彌四郎《插花初學》、松日庵之至等《遠州流活花初學（外三種）》、《含》、《插花忘草》、《松月堂百瓶》、《生花獨稽古》、小野蘭山、島田充房《花彙》、橘保國《畫本野山草》、片山直人《日本竹譜》、岡田玉山等《唐土名勝圖會》、大蘇芳年《月之百姿》等十五種，內容涉及茶道、花道、圖譜等。

自徑山茶東傳，茶藝在日本大為光大，發展出茶道一脈，既紹繼中國舊制，又自出心裁，別成風味，這從《賣茶翁茶器圖（外三種）》《茶式湖月抄》即可見一斑。日本獨特的自然風貌造就了其獨具一格的欣賞自然的審美趣味，在中國花藝及名物圖譜的影響下，花道流派蔚成大觀，植物圖譜層出迭現，《插花初學》《遠州流活花初學（外三種）》《花彙》《畫本野山草》《日本竹譜》是為代表。《唐土名勝圖會》一書則傳寫清代京城、直隸一帶風物，風土人情、山川景物悉入筆下，所引國人詩作亦多稀見，足資研究兩國文化交流。而《月之百姿》則代表了日本浮世繪的一個面相，管中窺豹，亦可知其大概。

此次古刻新韻日本專輯的印行，希望讀者由此版畫書刻世界而見東瀛文化之美，于茶花竹景中體會浮世百態，品味日本舊時月色而領會其空寂幽玄之魅，加深對日本近日藝術源頭的體悟，以資參證中日兩國茶藝、花藝和山川名物圖譜之異同。

目録

茶式湖月抄初編	一
茶式湖月抄二編卷上	二二九
茶式湖月抄二編卷下	二九一
茶式湖月抄三編卷上	三七三
茶式湖月抄三編卷下	四六一
茶式湖月抄四編卷上	五三九
茶式湖月抄四編卷下	六一一
茶式湖月抄五編卷上	六九三
茶式湖月抄五編卷下	七六一

茶式湖月抄

目次

茶之原始（茶ノハジメ）初丁

喫茶（キツサ）大概（タイガイ）八丁

露地（ロヂ）大概（タイガイ）十八丁

器物（キモノ）大概（タイガイ）廿三丁

千家系圖（センナノケイヅ）廿八丁

茶之驗效（チノケンコウ）六丁

草庵茶味（サアチノチノアジ）大概（タイガイ）十二丁

草庵（サアチ）大概（タイガイ）廿二丁

交會（カウクワイ）大概（タイガイ）廿六丁

風爐（フロ）五徳（ゴトク）附灰

透木爐 スキキブロ

薄茶 ウスチャ

花 ハナ

炭寸法 スミセンブツ

茶筌 チャセン

筒茶碗 鹽筥 ツツチャワン 塩筥

藥罐 片口 ヤクカン 片口

爐五徳ニヶ所 ロゴトクニヶ所

炭 スミ

濃茶 コイチャ

茶巾 チャキン

帛紗 フクサ

大蓋釜 オホカサ

釣瓶 水指 ツリビン 水指

大口 オホクチ

真手桶 マテバケ

平水指 ヒラミヅサシ 割蓋 ワカバタ 割盆 ワカバシ

曲水指 マゲミヅサシ

長緒茶入 ナガオチチャイル

以上初卷目 祿以下終卷目

丸卓 マルダシ

四方棚 ヨシガタナ

江岑棚 エノダナ

袋棚 フクロナ

三種棚 サンビシナ

高麗卓 カウリダシ

桑小卓 クワコダシ

紹鷗棚 セウオナ

道幸ダウニウ

大板オホイタ

臺子ダイス 爐風爐カマド

四疊半ヨチハハ 左右

向切ムカフ 左右

風爐カマド 左右

中置ナカオキ

旅簞タビタン 筥ス

長板ナガイタ 爐風爐カマド

大目ダイメ 隅棚スミナ

隅爐スミカマド

向板ムカイタ ニツ置ニツオキ 同ドウ ニツ置ニツオキ

長板ナガイタ ニツ置ニツオキ 同ドウ ニツ置ニツオキ

竹臺子タケダイス一ツ置オケ

大板オホイタ中置ナカオケ

爐ロ四ヨ疊テ半ハン流リシカ鏝リ

古風コフウ点テン

向切ムカギリ逆サカ勝手カテテ流リシカ点テン

利休好真臺子リキウコトシニエンダイス

竹臺子タケダイス

桑臺子クワダイス

紹鷗セウオウ棚タナ

袋棚フクロタナ

利休形四方棚リキウカタヨハタタナ

利休形角棚リキウカタスミタナ

丸卓マルダツ

桑小卓 クワコウタク

三重棚 サンゾウナ

道幸 ミチユキ

一重棚 イツゾウナ

利休爐縁 リキウロウヅリ

同蓋 ドウカイ

仙叟竹繫 センソウチクヰ

江岑棚 エノミナナ

利休形旅簞笥 リキウカゲツルダニ

大目向二重棚 オホメムカウニゾウナ

宗旦板風呂 ムネタニイタバニ

同覆 ドウフクレ

利休竹繫 リキウチクヰ

路次之事ニ附ト數寄屋水屋ス

晝茶湯ヒルチヤウ

曉茶湯トヨキチヤウ夜込ヨトモ云

飯後イシゴ菓子茶湯トモ云

一客イツキヤク

耳附茶入ミミツケチヤウ

夜咄ヨド

朝茶湯アサチヤウ

跡見アトミ

四ツ組茶入ヨツクミチヤウ

手瓶テビン油滴アブ附

目次終

茶式湖月抄

八

茶原始

上古茶といふもの三種ありと漢土の書に及えり其中の

苦茶といふもの今に茶なりと其餘の二種ハ蕪穢乃草

し堪て食品小に一説に古に其菜と食せば故に

茶字立べもいへり詩經に語小も出又爾雅に茶と檟

と出たり是と飲とさるるに漢土小ても中古よりは事ふ

る漢の代に司馬相如楊雄等茶を名しとも精

茶式月抄初編

イヨリノオ

ついでハ聞えバ三國サンゴクの時代具章ビダウ曜茶ゴノイヤウと好キヤ孫皓ソノカウ茶と

ついで賜カヘしと見え晋王シノノワタマウ濛人イタ至イタま六茶と飲ノヒむ故事コト

ついで魏晋キエンの頃コロより漸行ヤ、オニチととてついでツ其後キノチ唐タウハ玄ゲン

示シ入寶羊ホウヤウ中茶チュウチャ仙陸センリク羽世ウヨ出イデ肅宗ソクソウ代宗ダイソウは間朝野マウヤ

父フアトク茶經キヤウと著シラハし烹點ハウテンは法則ハフソクと立器タチウツと製衣セイイし水味スイミ

し吟ギンせりて天下テンカの人茶飲サイインの清雅セイガふるを賞習ウツクシせりて

上ウラタ風流フウリウ盛人サカヒトはなり宋ソウの代ヨ至イタツて太祖タイソ開寶カイホウ年中イニシ弥イ

さうふくをライイサイキョウ丁謂蔡襄大小龍團リウワンの製出明朝セイイヂに至る

芽茶ゲチャを用ひ團茶タンチャ廢スタまじりたりや其外漢土ソノホカカントよてのコ言シキ

すに悉コトバく舉盡アゲツクしカク且委カクく辨ビしムりとも無益ムエキ乃勤イソク

それをおもひ御國ミクニよてい

嵯峨サガ天皇テンノウの御宇キョウウ弘仁コウニ六年四月アノミ近江國シカガ志賀サウフクの崇福

寺ジに御幸ミコキし給タマヒひし次ツギに梵釋寺ボンシヤクジに鸞ラン與ヨと停トめらるし時トキ

大僧正ダイサウジ永忠エイチウ自御茶ミヤと煮ニて奉オホセツまじりたりふとト思オモふ

茶式明月抄少上

三